

現状・課題

- 現在もヤングケアラーを把握した場合は、関係機関が連携し必要な支援を行っている。
- しかし、当事者や関係者も含め、ヤングケアラーの認知度が低く、支援が必要な子どもの把握が十分とはいえない。

区の方向性

人材育成

子どもからは声をあげにくい  
 家庭内の問題は表面化しにくい  
 →接点のある大人・関係者が発見  
 気づいたら、声を聴き、必要な支援につなぐ

- ◎ 区職員・福祉・介護・教育・地域の担い手等への研修
- ◎ 関係者用窓口一覧リーフレット作成

普及啓発・周知

子ども自身が一人で悩まずに相談できる先を周知  
 一般区民へ正しい知識の普及と理解促進  
 →ヤングケアラーの認知度向上を図る

- ◎ ホームページの整備・チラシ等の活用

関係機関の連携・ネットワーク強化

ヤングケアラーについて共通認識  
 国や先進自治体の情報共有  
 課題を共有し支援体制の在り方を検討

- ◎ ヤングケアラー支援対策関係者連絡会
- ◎ ヤングケアラー支援対策関係者連絡会作業部会

相談・支援策の構築

現在ある相談事業・支援事業の見える化・情報を整備  
 子ども・その家族の孤立を防ぐための声かけ

- ◎ 公的サービス・民間サービスへつなぐ
- ◎ 家庭支援ヘルパーによる支援
- ◎ SSWによる支援